



Risk Flash Vol.1 No.4

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1
TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189
e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp
Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 経営の視点「近江商人研究からリスク問題を考える」・・・Page 1
- 今週の著書紹介「リスクの経済思想」・・・Page 2
- 教員紹介「荒井壽夫（教授）」・リスク研究センター通信・・・Page 3-4

経営の視点

「近江商人研究からリスク問題を考える」

経済学部企業経営学科教授 宇佐美英機

歴史学にとってリスク現象は織り込み済みのことなので、日ごろから近江商人のことを考えているけれども、リスク問題を自覚してはいないというのが正直なところだ。

とはいうものの、少し意識的に論じてみると、近年私が収集・検討している史料に「出世証文」－「仕合(しあわせ)証文」ともいう－があります。この証文は、「将来の不定時に債務を弁済することを約束した証文」ですが、要は「出世払い」を確約する証文です。今までにこの証文を約200通発見しているのですが、ほとんど上方地域に残されていて、他の地域には数通しか見あたりません。注目されるのは近江国に最も多数伝来しており、それらは近江商人の末裔の家に残されていることです。初見史料は1754年作成のものですが、これは京都の商家に残されています。

この事実から、「出世払い」を認める社会的な慣習は18世紀中葉に上方地域に成立し、近江国で最も浸透したということが明らかです。少なくとも、江戸時代に「出世払い」が通用したのは限られた地域であり、全国的な慣習ではなかったといえます。これはこれで歴史学にとってはおもしろい問題ですが、まだ解答用紙には書けません。

さて、「出世証文」「出世払い」を経営史の観点から読み解くならば、経営(家計)が破綻したために証文が債権者と債務者の間で手交され、債務者が家産を再興して後に債務を弁済するという事態を示しています。この点に鑑みるならば、なぜ債権・債務関係が発生したのか、なぜ「出世払い」の形で一時的にその関係を凍結したのか、債権者と債務者はどのような関係にあったのか等等、解明しなければならぬ問題が山積しています。

「出世証文」が作成された一つの原因は、奉公人たちによる引負金の発生にあったことがわかっています。それは、奉公人による遣込みや店に与えた商売上の損金(奉公人の債務)とされ、その弁済を求める事態が広汎に生起するようになったことを反映しています。

これらの史実を敷衍すると、経営管理・財務管理・人的資源管理・経営思想など、経営学の概念で「出世証文」の史実を説明することもでき、同時にこの証文を手交すること自体がリスク管理の問題であることも自明となります。「出世証文」は現在でも法的に認められた証文ですから、現代経営学でも分析する意義があるのです。

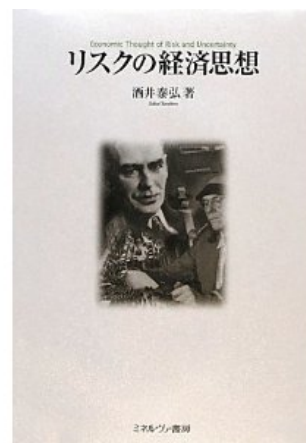
今週の著書紹介

著書：「リスクの経済思想」

著者：滋賀大学 経済学部特任教授 酒井泰弘
収録：リスク研究センター叢書、ミネルヴァ書房
270ページ

Keyword：リスク、不確実性、経済思想

不確実性によるリスクが高まりつつある昨今の社会情勢。本書ではリスクの経済学の歩みとして先駆者であるスミスとベルヌーイに加え、ナイトやノイマン、ケインズやロビンソンらの思考も考証する。その上で不確実性を加味した経済分析と時代背景を考察し、新しい経済学の方法を模索する。



著者のつぶやき

「リスクはクスリ、クスリはリスク」というのが、私のモットーであります。私がリスク研究を開始してから、既に相当の歳月が流れております。実に40年ほど前に、私は若き助教授として、ピッツバーグ大学にて数理経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学などの大学院・学部科目を熱心に講義しておりました。ある日、トルコから来た女子学生から、次のような質問を受けました。

「先生、私は中近東からきた学生です。先生が教えられる一般均衡理論は美しい数学体系ですが、私のような貧しき国のためにどのように役立つのか、さっぱり分かりません。」

私は激しい衝撃を受け、それ以来「現実にもっと近い学問」の道を模索し始めたのです。幸いにも、ゲーム理論で著名なモルゲンシュテルン先生の記念講演があり、同先生から次のような御示唆を頂きました。

「ドクター・サカイ、新しい学問《リスクと不確実性の経済学》が興隆しつつあります。貴君はまだ若いのだから、リスクを恐れずに果敢に挑戦されるといいですよ。」

これは天上の啓示か仏様のお言葉のように響きました。周囲を見渡してみれば、アカロフ、ステイグリッツ、スペンスなどのリスク研究者は、私と同世代の人々であります。「彼らに出来て私に出来ないことはない。同じ人間なのだから」と、私は勇を奮って新分野に挑戦することにしました。

私は日本語の著作『不確実性の経済学』（有斐閣、1982年）を漸く執筆しましたが、それはモルゲンシュテルン先生から頂いた宿題に対する、一様の解答書のようなものでありました。英語版は一部執筆し出版社と連絡をとったものの、その後中断の憂き目に遭ってしまいました。

今回の新著『リスクの経済思想』（ミネルヴァ書房、2010年）は、ある意味で上記の著作の続編であります。ただ新作においては、「リスク経済学を作った人々」という視点から、人となり、考え方、時代の背景などに、より大きなウエイトを置くように鋭意努力いたしました。特に注目した学者・思想家は、ダニエル・ベルヌーイ、アダム・スミス、パスカル、ナイト、ケインズ、フォン・ノイマン、モルゲンシュテルン、アカロフなどであります。上記のような経緯があるので、亡きモルゲンシュテルン先生の御霊前に捧げることが出来て、本当に嬉しい限りです。

人生において時にリスクをとることは必要であります。リスクは概してドクでもあり、避けたい気持ちに駆られるものです。しかし、それは夢とロマンを呼び込む「魔法のクスリ」ともなりうるわけであります。本書がリスク研究への一種の「解毒剤」の作用をすることを祈っております。

教員紹介 「荒井壽夫(教授)」

(1) 先生の現在のご研究のテーマについてお聞かせ下さい。

私の現在の研究テーマは、「現代フランスの雇用政策に関する一考察」というものです。ここで一考察と言いますのは、具体的な研究内容として次のようなことを考えているからです。フランスにおいては2000年代以降に議論されるようになった「フレキシキュリティ」（労働市場のフレキシビリティ+職業行程のセキュリティ）およびフランス独自の関連概念である「職業的社会保障」（職業行程の生涯のセキュリティ）という観点から、特にリーマン・ショック以降の雇用政策のマクロ的展開を明らかにすること、同時に雇用政策とりわけ職業訓練政策等に関しては地方分権化が進められている関係から、北フランスの自動車産業集積地の地域圏を対象として、この間の雇用政策の具体的実施状況・成果と問題点を実地調査によって明らかにすることを目指しているからです。



(2) 先生は、フランスの自動車産業における雇用問題などのご研究で、先ごろ渡仏されたそうですが、現地での様子などお聞かせ頂けますか。

私は今秋はじめに渡仏し、数日間パリに滞在しました。フランスでは初夏から年金改革問題が勃発し、政府は、年金保険財政の赤字問題の解決に向けて、①現行の年金受給開始年齢の60歳から62歳への引上げ、②年金の満額支給年齢の65歳から67歳へ引上げ等からなる改革案を提出しました。これを受け、全ての労働組合は、①必然的な定年延長がもたらす若者の雇用環境の更なる悪化、②肉体的な負荷の高い職種の従業者の体力低下に伴う定年延長のむずかしさ、③女性労働者の満額受給条件の困難化、④不十分な代替的手段の検討（たとえばストックオプション所得からの保険料徴収の検討）、等の観点からフランス全土で断続的な反対運動を展開してきました。私がパリ滞在時に市内で目にした数十万人のデモは反対意思を様々に唱和し表現していました（ただし改革案は10月末成立しました）。

ちょうどその時に訪問したパリ郊外の自動車組立工場の労働組合事務所で、年金問題との関連で高齢者雇用延長政策（協定）についても尋ねたところ、フランスの自動車産業の現場では労働の軽減化が進んでいないどころか、逆に人件費抑制のもとで職務拡大による肉体的負荷の増大が生じており、高齢者従業員雇用延長は全く問題外との対応でした。この高齢者雇用延長政策についても、高齢者への雇用提供と年金財政節約との両立という点で上記の「フレキシキュリティ」のいわば財政的表現である「アクティベーション」政策の意味があると思われませんが、フランスの生産労働者への適用はまだ困難であるという印象を受けました。

(3) 先生のご研究における今後の抱負をお聞かせ下さい。

今ありがたくも本学の最初の適用者としてサバティカルを享受させてもらっていますが、これを十分に活用して上記の研究調査を首尾よく遂行して、サバティカル終了後のできるだけ早い時期に著作の上梓を目指したいと思います。そしてその成果を学部と大学院の学生教育に生かし魅力ある授業を創るために役立てたいと考えています。

リスク研究センター通信

(1) 第4回大学院「経営リスク」ワークショップを開催しました。

11月19日にリスク研究センターの客員研究員マイゴックラン博士による「ベトナムへの投資リスク」に関するワークショップが開催され、ベトナム経済の現状とベトナム向け投資に関するリスク要因が解説されました。

▶ <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/5/7:12>



(2)平成22年度 博士後期課程経済経営リスク専攻2年次生研究報告会 (D2研究報告会と呼ばれています) が開催されました。

(日時：12月18日 (土) 13:30-16:20)

滋賀大学大学院経済学研究科は、平成15年に博士後期課程「経済経営リスク専攻」を設置しました。本課程は、国立の社会科学系大学院において「リスク」の研究・教育を掲げた唯一の課程です。主に社会人を対象とした課程で、授業はすべて土曜日に開講されています。定員は6名で、これまで20名の博士を誕生させてきました。

D2研究報告会は、学位論文の執筆が円滑に進むよう、カリキュラムの一環として設けられたもので、本年は、3名の学生がそれぞれ、①中国の企業所得税制改革の影響評価、②ゆうちょ銀行のビジネスモデル、③中小企業向けコンサルティングサービスを、テーマとする研究報告をしました。外部評価者として招聘した西垣鳴人岡山大学大学院教授をはじめ10数名の教員が加わって、厳しくも暖かい助言を加えました。公開の場でふだんの指導とはひと味違った角度からも多様な助言を得られたことは、学生にとって大いに有益な機会であったと思います。

なお、平成23年度の博士後期課程の入学試験は、平成23年1月29日 (土) に行われます。出願期間は、1月5日 (水) から13日 (木) です。意欲ある社会人の方々の出願をお待ちしています。また今年度は、博士前期課程 (修士課程) についても、2次募集を行います (試験日：3月17日の予定)。詳しくは、本学入試情報のホームページをごらんください。 http://www.shiga-u.ac.jp/adm_2.html

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター (以下、リスク研究センター) が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスは無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律 (平成15年5月30日法律第59号) に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題 (メールの遅延、消失) 等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、金秉基、久保英也、

澤木聖子、得田雅章、弘中史子、宮西賢次

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局

(Office Hours: 月-金 10:00-17:00)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1

TEL: 0749-27-1404 FAX: 0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>